



【教育目標】

豊かな心を持ち実践力のある生徒の育成

【目指す生徒像】

季節の花と明るい挨拶にあふれ、
生徒一人ひとりの夢と生きる力を培う学校

—大好きTAIHEI—

「未来の自分のために」

校長 鈴木 純

街並みに美しく彩りを与えてくれた紅葉の景観も、木枯らしを受けてカサカサと舞い散り、寒々となった街路樹の間から雲一つない青空が広がっています。また、校庭の泰平庭園のもみじは、真っ赤な葉と青々とした緑色のコントラストが映え、足早に過ぎ去っていく秋の風景の名残を見せています。

今年は、コロナ禍では減少していたインフルエンザが流行り始めています。手洗い、うがい睡眠など規則正しい生活を心がけ、お身体を大事にしてください。

さて、南の空に見える冬の代表的な星座といえば「オリオン座」でしょうか。そのオリオン座を和楽器の鼓の形に見立てると、左上の星が一番光って見えます。その星がベテルギウス。その星を含めて周囲の明るい星を三つ選んで、線で結ぶと冬の大三角を見つけ出すことができます。オリオン座に戻って、真ん中に3つ連なっている星の右側(西側)延長線上に視線を移動すると、小さな集団で光っている星たちがあります。もうおわかりですね。某自動車メーカーのエンブレムにもなっている昴(すばる)、プレアデス星団です。プレアデス星団は、牡牛座にある比較的若い星たちが集まる散開星団(恒星の集団の一種。分子雲から同時に生まれた星同士が、いまだに互いに近い位置にある状態の天体を指し、見た目は青白く輝いて美しいが星自体は高温で、大きく熱核融合活動も活発で若く元気な星たちの集まり)だそうです。

ところで、その昴(プレアデス星団)の星を肉眼でいくつ数えられますか?視力のいい人は、6つ見つけられるそうです。最近では、夜でも周囲が明るく、星が見えにくくなっていますが、空気が澄んで周囲の明かりに左右されない場所で、ぜひ探してみてください。また、その星にまつわる星座の物語などをかたわらに星空散歩などはいかがでしょう。

「昴」といえば、同名の曲が頭に浮かびます。みなさんは聴いたことがありますか。今年74歳で亡くなったシンガーソングライターの谷村新司さんが作詞作曲し、自ら歌っていた曲です。当時、レコードの売り上げが60万枚のヒット曲となり、紅白歌合戦でも、この曲が過去に5回歌われています。この曲を聴くと、中学生の頃、寒空の下、受験勉強の合間のリフレッシュとして、南の夜空を見上げた思い出とともに懐かしさがよみがえってきます。

昴

目を閉じて 何も見えず 哀しくて目を開ければ 荒野に向かう道より 他に見えるものはなし

ああ 砕け散る宿命(さだめ)の星たちよ せめて密やかに この身を照せよ

我は行く 蒼白き頬のままで 我は行く さらば昴よ

呼吸(いき)をすれば胸の中 冴(こがらし)は吠(な)き続ける されど我が胸は熱く夢を追い続けるなり

ああ さんざめく 名も無き星たちよ せめて鮮やかに その身を終われよ

我も行く 心の命ずるままに 我も行く さらば昴よ

ああ いつの日か誰かがこの道を ああ いつの日か誰かがこの道を

我は行く 蒼白き頬のままで 我は行く さらば昴よ 我は行く さらば昴よ

谷村さんご自身の著書で「目に見えるモノ(物質的な豊かさ)を追求しようとするのがキリがない。今後は目に見えないモノ(精神的な豊かさ)を追い求める新しい時代を創っていかう。それが『さらば昴よ』というフレーズに込められた本当の意味ではないのか」と述べられています。冒頭の「目を閉じて何も見えず」からの一節は、「何もしてこなければ、過去を振り返っても何も見えない。努力をしてきた証がなければ、その先の未来も荒れ果てた道しか見えない」というふうにとらえられます。ドキッと歌い出しです。今をいかに生きるか。そして、生きてきた証を残し、前に進んでいくことの大切さをひしひしと感じ取ることができます。中学時代のこのときこそ、たくさんの方のことを追求するときです。様々な積み重ねは、未来の自分にきっと役に立つはずですよ。